



私達の大切にしている「家づくり」の考え方

日本人の情緒の形成には、自然（各地方々の風景や気候）・食事（郷土料理・家庭料理 味噌汁や漬物）・芸能（祭り・能・民謡・舞踏）と並んで、住まいの果たす役割が大きかったのではないでしょうか。

私達の家づくりは伝統的な民家をベースにして、現代の生活様式に合うよう工夫を重ねて、それを実践して参りました。「日本人の情緒」に訴えられる家であれば、いつまでも愛しめられ、飽きられる事無く永い年月を住み続ける事が出来ると信じております。

機能性や利便性が優先され、経済的合理性が重要視された家づくりは、不变性に欠け、流行的なサイクルが短く、結果として、文化の育成や環境を阻害してしまうのではないでしょうか。

木材は

天然乾燥した物を
手刻みして金物を
使用しない構法。

木材は可能な限り丸太か
ら調達する事を旨とし、
すべて天然乾燥したもの
を使用します。

柱・梁の構造は、完成後
も見える民家づくりを
ベースとし、伝統工法に
より手刻み加工をします。

仕上げ材料は新建材を一
切使用していません。
内外部全て真壁づくり、
壁は全て漆喰塗りで仕上
げます。

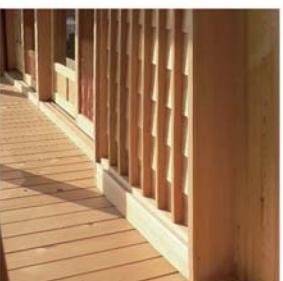
屋根瓦は今では日本で唯
一となってしまった地元
藤岡のだるま窯で松材に
より焼成された瓦を使い
ます。

建具材や流し台などの造
り付け家具材も丸太から
調達できるため工業製品
の使用を最小限に抑える
ことが可能です（合板類
は一切不使用）。

このようにして完成した
家に住んでみると・・・
何百年も山で生きてきた
木が今度は自分の家で生
きてくれることへの感謝

と木のぬくもりに抱かれ
木と一緒に生活している
という実感がわいてきま
す。

家を作つたことにより自
分もつくられた喜び。こ
の家にふさわしい住まい
人になるような気持ちが
自然に生まれてくるはず
です。それが日本人として
の情緒を育むと信じて。



家づくりの

7つの基本理念

日本の伝統文化を
受継ぎ、人格形成
の場となる住まい

気候風土を生かし
た住まい

伝統工法による架構が完成後も全て見える家。家族の一体感を育む空間構成。ひとつ屋根の下で暮らす実感。



地球環境を大切にした住まい

可能ななかぎり永い年月を経た材木を使用。何世代に渡つて住まい続けられる飽きのこない家。

財産を守る住まい

昔から使われてきた仕上げ材料に徹することにより、誰でも手に入り得る事が可能な価格で実施する。

病気をつくらない住まい

内・外部全て漆喰塗り仕上げ。五感に響いて来るような喜びを体感できる家。炭素埋設により「生命力」「免疫力」を高める工夫がしてあります。

生命を守る住まい

力強い木の架構。無垢の素材から醸し出される安堵感、力強さに包まれた安心感が住んでいる人の支えになります。

高齢者や障害者が、自立して暮らせる住まい

人の用の目的に誠実である事。自然物の1つとしての、人と家が調和しつつ響き合って暮らす事ができる家。



炭素埋設により、いやしろちになります。



合板や新材、工業化製品を使用しない家づくり。



民家には「家づくり」の本質がある。